



平成20年7月18日
第127回役員会決議
第78回評議員会決議

平成20年度
「荒川区のまちづくりに関する要望書」

荒川区におかれましては、従前より東京商工会議所荒川支部の要望活動に対しまして、施策への反映等に積極的に対応いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、荒川区は、平成17年8月につくばエクスプレス、平成20年3月末に日暮里・舎人線が開業し、さらに平成22年度には成田高速鉄道の開業を迎えるなど、注目を集めている地域の一つです。交通の利便性が高まることで、区外から観光を目的とする人の流入がこれまで以上に見込まれ、にぎわいのある街としての発展が期待されています。荒川区では、区民と行政が共に街づくりを考える場と街づくり推進体制の総合的な指針とする「荒川区都市計画マスタープラン」を策定するため、都市計画マスタープラン策定委員会を運営されています。観光を軸とした地域振興により、地域経済を発展させ、さらなるにぎわいを生み出すために、また、荒川区が企業や区民にとっても魅力ある街であり続けるために下記のとおり産業人の意見をまとめましたので、「荒川区都市計画マスタープラン」にて街づくりの目標とされますよう検討を要望いたします。

記

1、産業革新都市

(1) 工場立地・操業環境の整備

工場を有する事業者が用途地域の指定変更等により、十分な増改築ができないため、区外への転出や、事業の断念を迫られるケースがでています。職住混在の街の混乱をさけ、将来を見据えた産業振興の観点から工場の操業環境の確保に努力をされますようお願いいたします。

(2) 株式会社あらかわTMOの支援

平成12年3月に策定された南千住駅周辺地域を対象とした活性化事業を推進すべく、関係者の努力により平成14年9月に設立された株式会社あらかわTMOは、いまだ財政基盤が弱い状況にあります。引き続き、TMO活動への理解・支援をお願いいたします。

(3) 商店街組織の未加入者への「荒川区産業振興基本条例」の遵守の徹底

商店街において事業を営むチェーンストア等の中には、商店街組織に未加入のところも散見され、「ただ乗り」が問題視されています。地域の振興の観点からこれらの問題の抜本的な解決に向け、「荒川区産業振興基本条例」の遵守の徹底のため、商店街・チェーンストア運営者の話し合いの場を設定していただきますようお願いいたします。

2、環境先進都市

(1) 三河島水再生センターの活用

現在、三河島水再生センターで処理される水は、1日に70万トンともいわれています。処理された水は隅田川に放流され、隅田川の水質の改善と東京湾の富栄養化防止に寄与していますが、下水処理水の臭気の問題が解決されていない段階では、街路樹・公園植栽の散水や地域冷暖房への利用などの利用促進が進みません。より一層の有効活用のために、オゾン処理の実

施も含めて検討をお願いいたします。

(2) 二酸化炭素の削減

地球温暖化への取り組みは、世界の重要課題となっており、荒川区においても「新たな基本構想」の中で環境先進都市を目指すことになっています。

現状では、二酸化炭素を吸収する樹木等の緑皮率は7.3%と、23区で最低となっています。また、23区の中で、歴史（三河島水再生センター：大正11年3月運転）と処理能力（1日の処理能力：70万トン）で有名な下水道事業ですが、事業活動で排出される温室効果ガスの43%を占め、都内で使用される消費電力の1%を使用する最大の電力消費者となっています。地球温暖化防止に対する責任の一環としても、荒川自然公園の覆蓋による増床を含め、リンの採取等を踏まえた古い設備の建て替え等の検討をお願いいたします。

3、文化創造都市

(1) 都電荒川線の活用

都電荒川線は荒川区の貴重な観光資源の一つです。都電の延伸計画については、以前から論議がなされていますが、具体的な進展は見られない状況です。平成24年には、墨田区に建設中の「東京スカイツリー」が開業し、観光をする人の流れが大幅に変わることが予想されますので、都電を地域観光政策の起爆剤として利用することの検討をお願いいたします。

具体的には、停留場の「荒川区役所前」から分岐し、汐入を経由し、浅草、東京スカイツリー（約5km）を結ぶことにより、交通の利便性の向上が一層図られることとなります。使用する車両はレトロタイプその他、先進諸国などで導入が進められている新たな都市交通システムであるLRT（ライトレールトランジット）や、JR北海道が開発した線路や道路も走れるDMV（デュアルモードビークル）等の検討をお願いいたします。

(2) 隅田川貨物駅の活用

南千住の東側地域は、日本貨物鉄道㈱の隅田川貨物駅があります。面積は、南千住駅の東側地域の約2割を占める大規模なものです。現在、セメントサイロ部分の活用についての開発検討が予定されています。この機会に隅田川駅全体についても、荒川区の文化にふさわしいホテル、公園、競技場、娯楽施設など、日本貨物鉄道㈱にとっても望ましい土地の活用について、荒川区と日本貨物鉄道㈱両者として引き続き調査・検討を行い、調査結果を公表していただきますよう要望します。

(3) 観光施設の掲示・周知

観光パンフレットの作成や配布はされていますが、都電の停留場における名所・旧跡の表示はまだ充分とはいえない状況です。都電の車中や停留場の場内案内のアナウンスにも、名所・旧跡のアナウンスは必要と考えます。東京都交通局と協力をし、さらに観光施設の掲示・周知に努力されるようお願いいたします。

(4) 隅田川の観光資源の整備・発掘及びサイクリングロード・遊歩道の設置

区民にとって日常接する気に留めない文化財の中には、実は歴史的価値のあるものが含まれています。荒川区外からの観光客を呼びこめるような区内の名所、旧跡等の観光資源の整備・発掘に加え、あらかわの観光施設を結ぶ回遊性の問題解決の一步となる荒川自然公園、尾久の原公園、あらかわ遊園を結ぶ隅田川の遊歩道、サイクリングロードづくり、その他「川の駅」、水陸両用船の活用等、隅田川の水辺空間の活用について具体的な検討をお願いいたします。

4、安全安心都市

(1) 木造住宅密集市街地の改善

荒川区は近代産業の発展に伴い、大工場と中小企業が区画整理を経ないで急激に市街化されたため、住・商・工の混在した街となり、道路等の整備基盤が追いつかないまま形成された木造密集市街地が広範囲にわたって存在しています。震災発生時には大規模な火災が発生し、狭隘道路に避難しようとする罹災者や搬出した家財等が充満して、消防自動車等の緊急車両が入れないことが予想されるなど荒川区が防災上の問題がある都市として俎上にあがっております。

一方、南千住、汐入、日暮里では再開発により新しい安心・安全な街並みが整い、目を見張るものがあります。このように成功している再開発の手法を視野に入れ、家屋や店舗などをひとつに束ね、ビルにすることで道路を拡張する、都営・区営住宅の整備、荒川区本庁舎の建て替えを利用した住宅密集地の解消等、抜本的解決に向け検討されることをお願いいたします。

以 上